

フジテレビのクラウド活用事例

- ① FNS標準営放システム
- ② 総合コンテンツ活用システム

2023年2月21日 フジテレビ 技術局



 FNS標準営放システム 概要

1. 営放システムとは



テレビ局の基幹システムである

『編成営業放送システム』(営放システム)の役割について

- 番組編成情報の管理
 - ・1日24時間のタイムテーブル作成、CM総量、レギュラー編成、特番編成
 - ・ネット番組、ローカル番組、購入番組
 - ・スポーツ中継時の延長、早終対応など
- CM販売に関わる営業情報の管理
 - ・タイムセールス、スポットセールス
 - ・ネットCM、ローカルCM
- 番組やCMを放送するための放送準備情報の管理
 - ・生放送/VTR放送切替え
 - ·CM送出順、CM素材指定
 - ・大災害、大事故、大事件の対応 カットイン、こじあけ、番組休止

2. 番組編成~放送準備 営放データ例



編成		営業		放送準備	
番組編成	フォーマット	提供進行データ	CM進行データ	放送進行データ	
18:00 サザエさん	オープニング 89" 提供A 10" CM1 90" 番組本編1 CM2 90"	△芝 4″ アー○製薬 3″ 農△中○金庫 ○ルビー 日△食品 みず□銀行 3″ 花 ◇ ○の素	△清 ど○兵 30″ R○22 そ 15″ ベ△ータ 新 15″ ブランド広告 30″	開始時刻 Format 素材 18:00:00 オープニング HP001 18:01:29 提供 A TKA 18:01:39 CM1 △清 どの 18:01:59 CM1 RO22 18:01:14 CM1 ベムータ 18:01:29 CM1 ブランドル)兵 そ 新
	番組本編2 CM3 90"		ギザギザ 厚 15" ア△エンスS 30" L◇Dキレイ 15"	18:03:09 番組本編1 HP002 18:03:09 番組本編1 字幕右上 18:03:12 番組本編1	
	番組本編3 予告1 提供A' 10"	△芝 4″ アー○製薬 3″ 農△中○金庫 ○ルビー 日△食品 みず□銀行 3″ 花 ◇ ○の素	スムーボ ア 15" □キューブ 30" AJ○くじ 30" 12ピムパラ 30"	18:03:38 番組本編1 お子様へ 18:03:43 番組本編1 18:10:04 CM2 ポテトチッ 18:10:19 CM2 ギザギザ 18:10:34 CM2 ア△エン: : : : :	プ 厚



FNS標準営放システムV1(稼働開始2005年~)

アナログ放送時代は各社別々の営放システムを利用

地上波デジタル放送開始に際し、ローカル局システム担当者たちの「未知なる放送」対応、体制、費用、スケジュール・・・への危機感から標準営放システムV1を共同開発し、共同運営を開始 "標準業務フロー" "業務/言葉の統一"

→ 共通のオンプレ設備を各社に設置

FNS標準営放システムの標準化による導入効果

課題	解決方法	効果
標準営放システムの地デジ化への対応	共同開発、共同運営	設備投資費/保守費の削減
業務/言葉の違いやシステム仕様が様々	業務フローや言葉の定義を統一	運用ノウハウの共有、日々の現場での運用効率向上

※FNS標準営放はFNS系列23局にて運用中 (CX、THK、KTV、TOS、UMKを除く23局)

4. 標準営放システムのクラウド実装



FNS標準営放システムV1稼働後・・・

放送局の将来として、ITの重要性が増す一方で、 局単体としては、特に経営規模の小さいローカル局においては IT部門の体制の確保・増強、担当者のスキルの維持向上が難しい



各社個別の「設備投資」から系列共通の「サービス利用」へ転換

<u>放送対応(に信頼たる)FNS情報システムセンター</u> を構築(サービス開始2012年~)

運用・監視も含め「放送クラウド」の実現 へ

FNS標準営放システムV2(稼働開始2013年~)

放送局基幹システムを日本で初めてクラウド環境に実装

FNS標準営放システムV3(各局導入作業展開中~)

センター基盤更新

⇒機能・可用性・サービスレベルを維持したまま新環境へ移行



FNS標準営放システムのクラウド実装(サービス化)による導入効果

課題	解決方法	導入効果
設備投資	サービス利用化	初期導入費、保守費の削減
設備の維持管理	設備の非所有	保守の労力、時間の削減
IT部門の体制の確保増強 担当者のスキルの維持向上	設備の共同利用、共同運営	運用ノウハウ共有、運用負荷軽減
災害対策	バックアップセンターとリソース確保	災害時でも通常と同じパフォーマンスを維持



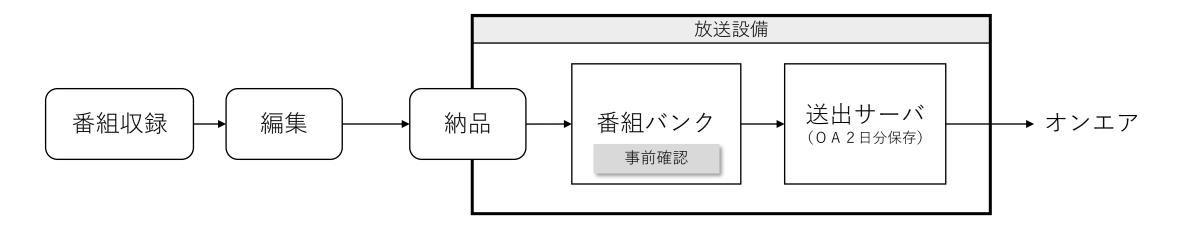
② 総合コンテンツ管理システム 概要



総合コンテンツ管理システムの前に

番組バンクについて

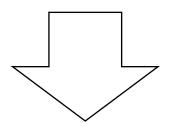
- ・放送用の番組素材を一旦取りためる放送設備
- ・放送前に信号品質や編集点を確認
- ・確認終了後、送出サーバへ転送



2. 構築の目的



従来は放送専用設備であった「番組バンク」を 放送以外のサービスでも利用可能とする。



※放送以外:配信や番組販売

番組コンテンツのマルチユース促進

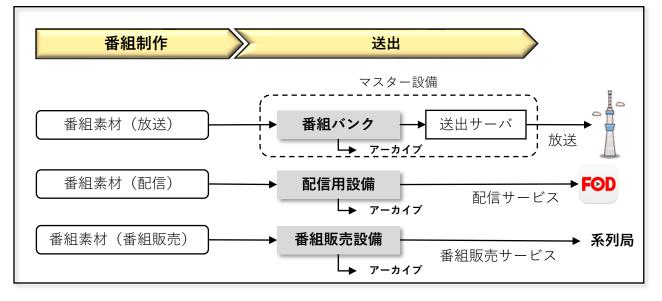
・システム統合によるコスト削減と業務効率化

3. 番組バンクと総合コンテンツ管理システムの違い



◆従来はサービス(地上波/BS/CS/配信/番販など)ごとに設備構築

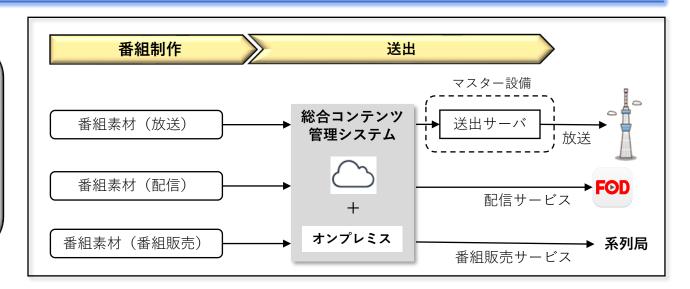
- ・ 番組バンクは放送専用設備
 - ▶ 放送用の番組素材を保存
 - ▶ 放送前に信号品質や編集点を確認し、送出サーバへ転送
- 配信設備/番組販売設備も番組バンクと同等機能を実装
 - ▶ 代表的な機能: インジェスト、プレビュー、転送、保存



◆総合コンテンツ管理システムは複数サービスで共用

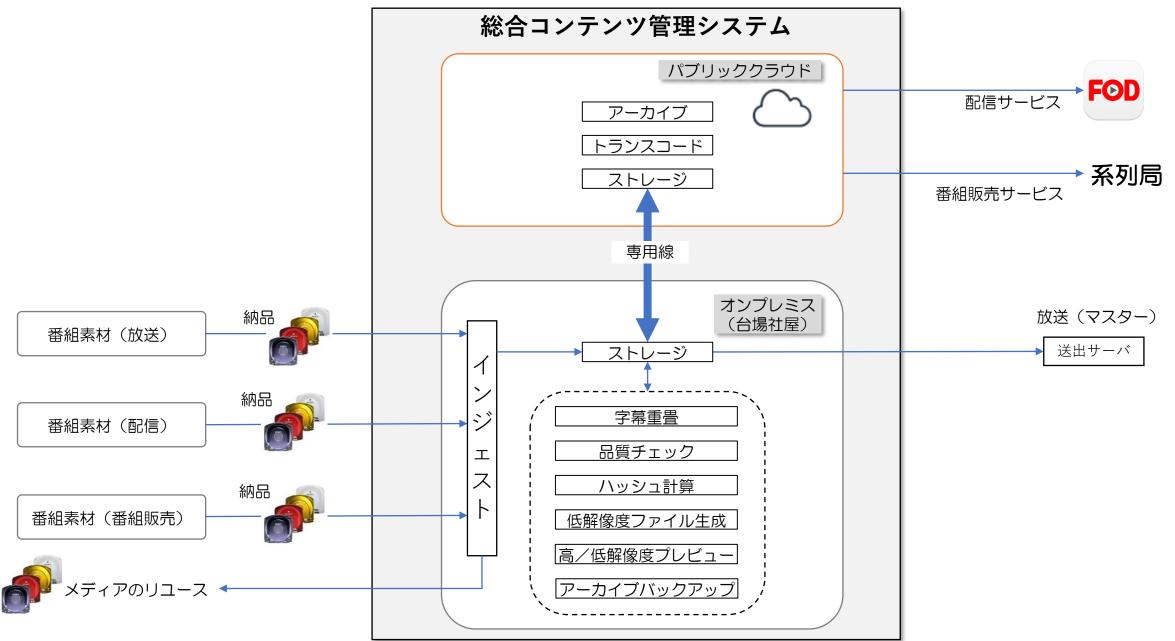
<システムコンセプト>

- ・サービスごとに設備構築せず、同じ機能は統合し、共用する。
- ・番組コンテンツをサービス間で共有し、複数アウトプットを生成
- ・迅速な機能拡張を容易にするため、クラウドを活用
- ・素材準備からアーカイブまでを統合



4. 総合コンテンツ管理システム概要







システム統合によるコスト削減と業務効率化

従来	現在	導入効果
全て設備投資	設備投資+従量課金。結果、保守費も削減	設備投資費を抑えられる
設計段階で最大値を見込んでおく	利用状況に応じて台数やスペックを変更	サーバースペックを容易に変更可能
システム全体でのコスト算出	コストの明細化が可能	コストの見える化
物理メディアを倉庫から出庫して運搬	端末操作でのオンラインアクセス	番組素材に即アクセス可能
メディアで保管	ファイルでクラウド保存	メディアのリユースが可能
手動でメディア変換(ダビング)	保存用メディアに依存しないため、原則不要	アーカイブのマイグレーションが可能



以上